

令和元年8月31日現在

機関番号：37118

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02789

研究課題名(和文) 対話の文体分析と英米演劇テキストの精緻化コーパスの作成

研究課題名(英文) Stylistic Analysis of Dialogical Speeches And Making Annotated Corpus of American Dramas

研究代表者

能勢 卓 (NOSE, Takuji)

福岡女学院大学・人文学部・准教授

研究者番号：70626837

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究において、ユージン・オニールの50作品(約107万語)のテキストに談話情報を付加した精緻化コーパスの作成を試みた。今回付加した談話情報は、全作品のテキストを台詞とト書きに分け、それぞれの台詞の話者と聞き手それぞれの名前、性別、社会的地位、双方から見た関係性を確認し、それらをOXYGENを用いて精緻化コーパスの作成を行った。今回の研究では、50作品のうち30作品については談話情報を付加したコーパスまで完成させ、残りの20作品中の14作品に関しては9項目の談話情報の確認作業までは完了できた。また対象コーパスのモームの18喜劇のうち11作品に関しては電子化テキストの作成が完了した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

コミュニケーションにおける発話者のメッセージの効果的伝達に関する文体研究は、有効且つ重要な研究であると考えられる。そこで今回の研究成果である演劇作品のコーパスに談話情報と意味情報を付加した精緻化コーパスを作成し、その上で英米演劇テキストのコーパスを用いた台詞の文体研究を進展させることで、コミュニケーションにおけるメッセージの効果的伝達のために台詞に施された言語的工夫、つまり演劇作品の台詞における効果的言語化の一端を明らかにできるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I have attempted to make annotated corpus of Eugene O'Neill's 50 dramas which consist of approximately 1,070,000 words. I have made the annotated corpus by using OXYGEN (XML Editor) after checking the following nine items of discourse information in each drama: Speech/Stage Direction, Speakers' and Hearers' name, gender, social status, and relation. In the study, I have made 30 works of annotated corpus, and have dealt with the nine items of discourse information in 14 works. In addition, I have made digitized texts of 11 dramas by Somerset Maugham for control corpus.

研究分野：英米演劇、コーパス文体論

キーワード：台詞の文体分析 コーパス文体論 英米演劇 Eugene O'Neill 談話情報付加コーパス マニユスクリプト研究 電子化テキストの作成

## 1. 研究開始当初の背景

コミュニケーション能力の重要性が指摘される現在、対話を構成する台詞の文体分析は時代的必要性が大きくなっていると考えられる。しかし演劇言語の文体研究は、詩や小説における文体研究と比較した場合、必ずしも質・量共に充実しているとは言い難い面があり、それ故これまで私は Eugene O' Neill を中心とした英米の演劇作品の台詞の文体的特徴に関する研究に取り組んできた。そして平成 25 年度より 2 年間 JSPS 科研費 25580106 「英米演劇の台詞の電子化とその文体分析」の助成を受け、Eugene O' Neill の演劇作品のテキストの電子化を行い、彼の 50 作品[約 107 万語]のコーパスを基礎データとして用いて台詞の文体研究を行った。またコーパスを用いた多角的文体分析に加えて、劇作家のアイデアノートや草稿レベルにおける台詞の文体上の変化を分析することにより、台詞への加筆修正の過程から見てくる文体的特徴にも分析と考察を加えてきた。

そこで今回の研究「対話の文体分析と英米演劇テキストの精緻化コーパスの作成」においては、これまでに作成したプレインテキストから得られる語彙や統語情報だけでは台詞の文体分析を行う上で不十分な点があった。そこでこれまでに作成してきた Eugene O' Neill の 50 作品[約 107 万語]のテキストを完成させた上で、その 50 作品[約 107 万語]のコーパスに談話情報と意味情報を付加した精緻化コーパスを作成した上で台詞の文体研究を発展させていくことを計画した。そして第二に、O' Neill のアイデアノートと彼の代表作の草稿を調査・分析し、創作過程において台詞に施された言語的工夫のプロセスの検証から、演劇作品の台詞における効果的言語化の一端を明らかにしていくことも計画に含めた。

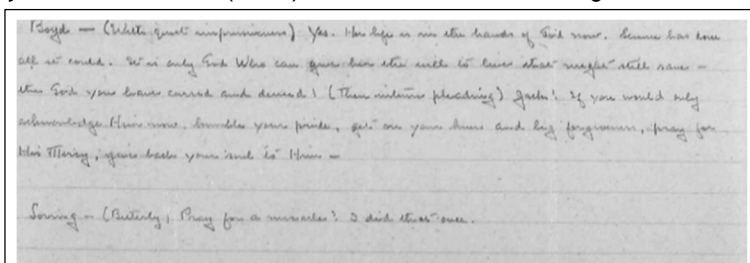
## 2. 研究の目的

コミュニケーションにおける発話者のメッセージの効果的伝達に関する文体研究は、有効且つ重要な研究であると考え、本研究においては次の二点を研究の中心的目的とした：

- [1] Eugene O' Neill の 50 作品[約 107 万語]のコーパスに談話情報を付加した精緻化コーパスを作成し、その上で英米演劇テキストのコーパスを用いた台詞の文体研究を発展させていく[なお比較を行うために同時期の劇作家の演劇作品のコーパスの作成も行う]。
- [2] コーパスを用いた多角的文体分析に加えて、劇作家のアイデアノートやマニュスクリプトを調査・分析することを通して、創作過程において台詞に施された言語的工夫のプロセスの検証から、演劇作品の台詞における効果的言語化の一端を明らかにしていく。

精緻化コーパスを利用することの有効性は、O' Neill の *Days Without End*[以下 *DWE* と略記]の台詞の分析において明らかに見出された。*DWE* の主人公である John Loving は、真理・信仰・生を求める素顔の John と、懐疑・悪意・死を求める仮面の Loving に分裂して舞台上に登場し、善と悪の葛藤[good-evil conflict]が明示的に舞台上に表出されていると、これまでの文学研究において考えられてきた。そこで精緻化したコーパスを用いて、John と Loving それぞれの台詞の中の“love”の使用状況を分析すると、John は“love”を合計 40 回[8.04%]、また Loving は“love”を合計 15 回[5.31%]使用していることが分かり、そして更に分析を進めると、以下の図に示す様に、John の“love”のコロケーションを視覚化した場合、“god,” “his,” “thy”などの神の存在を表す語彙とのコロケーションが多く現れ、それとは反対に Loving の“love”とのコロケーションでは、“hate,” “hated,” “betraying,” “revenge”という語彙が多く現れてきた。この Visualizer の結果に端的に表されている様に、John と Loving の台詞の中での“love”のコロケーションを分析すると、John の場合は肯定的な意味を担う語彙との共起が、それとは逆に Loving の場合は“hate”などの否定的な意味を担う語彙との共起が明らかとなった。このように精緻化したコーパスを利用した語彙データにコロケーションの分析を加えることにより、これまでなされてきた文学的解釈に、語彙その他のコーパスデータという言語的側面からサポートされた合理的説明をなすことが可能となる。この様な点から考えて、談話情報や意味情報を付加した精緻化コーパスを作成し、台詞の文体研究を進めることの有効性は高いものであると考えられる。

またマニュスクリプトの調査・研究に関しては、コーパスから得られた情報を用いた文体分析の過程で生じる幾つかの問題を考える上で、マニュスクリプトに記されている加筆修正の創作過程の検証は非常に効果的である。例えばそれは、NOSE (2019)において Eugene O' Neill の *Days Without End* (1934)で使用された内的 dialogue と外的 dialogue の二種類の dialogue を



構成する台詞の文体的特長に関して、現存する 5 つのドラフトの創作過程での言語的变化の分析を加え、O' Neill が台詞に加えた様々な加筆修正・変更削除から彼が求めた効果的な言葉や表現と効果的な台詞の展開の過程に検証を加える

ことができた [図は *Days Without End* の 4th Draft (Yale 大学 Beinecke 図書館より資料提供

を受ける)」。この *Days Without End* の例が示す様に、台詞の加筆修正の過程から作者が施した言語的工夫の意図を理解することが可能になる点からも、マニユスクリプトの検証や創作過程の分析の有効性は高いものであると考えられた。

### 3. 研究の方法

本研究における精緻化コーパスの作成は、まず Eugene O' Neill の 50 作品の全てのテキストに次の 9 つの談話情報を付加する必要がある: 話者情報 "Speaker" (またはト書 [StD と略記])、話者の社会的地位 "S-Status"、話者の性別 "S-Gender"、話者から見た聞き手との関係 "S-Relation"、発話内容 "Speech" (ト書の場合はト書の描写内容)、聞き手情報 "Hearer"、聞き手の社会的地位 "H-Status"、聞き手の性別 "H-Gender"、聞き手から見た話者との関係 "H-Relation"。これら 9 つの情報は、これまでの研究活動で作成した O' Neill の各作品の電子化テキストをエクセルに貼り付けたものを読みながら各項目をチェックし、以下に例示するように、エクセル上にそれぞれの情報を入力する:

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	No	Speaker	S-Status	S-Gender	S-Relation	Speech	Hearer	H-Status	H-Gender	H-Relation
10	9	StD				For a moment after the rise of the curtain, there is silence. Then from the floor above comes the sound of voices and the rising and falling wail of an Irish kean for the dead. Cregan stirs and mutters to himself resentfully.				
11	10	CREGAN	drunkard	male	oneself	Ah, keen with your mouths and pretend, but there's devil a one in the world but miself and Nora cares in their hearts he's gone. (He slumps into brooding dejection again. The door from the Bar is opened and Mickey Maloy, the barkeep, comes in. Maloy is as typically the Irish peasant as Cregan. He is thirty-four with a sturdy physique beginning to run into fat. He has a healthy, honest, common, fresh-complected face with curly dark hair and small blue eyes, twinkling with an amiable cunning. His mouth is set in the half-leering grin of a bartender's would-be, worldly-wise cynicism. He glances at Cregan with a look of mingled liking and contempt for his weakness.)	CREGAN	drunkard	male	oneself
12	11	MALLOY	barkeeper	male	friend	(automatically appraising the decanter--grinning) Glory be, it's three-quarters full yet! Are ye sick, Jamie? (Cregan gives no sign of having heard the jibe. Mickey sits in the chair opposite him.) I've been takin' stock of what liquor's left. There's enough for Nora to kepe on. With me to help her--(grudgingly) and you too, if you'd stay sober--she'll have a livin' from this place. (He pauses, then goes on resentfully.) We'd have no cause to worry for Nora if it wasn't for the debts himself run up in the days he was playin' the grand gentleman.	CREGAN	drunkard	male	friend
13	12	CREGAN	drunkard	male	friend	(starts from his stupor and pounds his fist on the table angrily) Let you close your big mouth--and him dead upstairs! I'll not hear a word against him!	MALLOY	barkeeper	male	friend

上記の談話情報を入力したエクセルをもとに、EXL Editor の Oxygen を使用して、9 項目の談話情報を以下のようにマークアップしていく:

```

41 <body>
42 <p>
43 <stage> Mammy Saunders' bedroom in a house just off of Carmine Street, New York City.
44 The left of the room, forward, is taken up by a heavy, old-fashioned wooden bedstead
45 with a feather mattress. A gaudy red-and-yellow quilt covers the other bedclothes. In
46 back of the bed, a chest of drawers placed against the left wall. On top of the
47 chest, a small lamp. A rocking-chair stands beside the head of the bed on the right.
48 In the rear wall, toward the right, a low window with ragged white curtains. In the
49 right corner, a washstand with bowl and pitcher. Bottles of medicine, a spoon, a
50 glass, etc., are also on the stand. Farther forward, a door opening on the hall and
51 stairway. It is soon after nightfall of a day in early winter. The room is in shadowy
52 half darkness, the only light being a pale glow that seeps through the window from
53 the arc lamp on the nearby corner, and by which the objects in the room can be dimly
54 discerned. The vague outlines of Mammy Saunders' figure lying in the bed can be seen,
55 and her black face stands out in sharp contrast from the pillows that support her
56 head. </stage>
57 </p>
58 <sp speaker="MAMMY" hearer="CEELY" Srelation="mother" Hrelation="daughter" Sgender="female"
59 Hgender="female" Sstatus="House Wife" Hstatus="Caregiver">
60 <speaker>MAMMY</speaker>
61 <p>
62 <SpStage>(weakly)</SpStage>
63 <Sptext>Ceely Ann!</Sptext><SpStage>(with faint querulousness)</SpStage>
64 <Sptext>Light de lamp, will you? Hits mighty dark in yere.</Sptext>
65 <SpStage>(after a slight pause)</SpStage>
66 <Sptext>Ain't you dar, Ceely Ann?</Sptext>
67 <SpStage>(Receiving no reply she sighs deeply and her limbs move uneasily under the
68 bedclothes. The door is opened and shut and the stooping form of another colored
69 woman appears in the semi-darkness. She goes to the foot of the bed sobbing
70 softly, and stands there evidently making an effort to control her
71 emotion.)</SpStage>
72 </p>

```

上記の例にあるように各作品の中のテキストは、ト書きに関しては<stage>のタグがつけられ、台詞に関しては<sp>のタグが、また台詞の中の発話内容は<Sptext>のタグがつけられ、また台詞の中のト書きに関しては<SpStage>のタグがつけられている。その上で台詞の話し手には "speaker"、聞き手には "hearer"、聞き手に対する話し手の関係には "Srelation"、話し手に対する聞き手の関係 "Hrelation"、話し手の性別 "Sgender"、聞き手の性別 "Hgender"、話し手の社会的地位 "Sstatus"、聞き手の社会的地位 "Hstatus" のタグがそれぞれつけられている。このようなタグ情報をコーパスに付加することにより、各作品または複数の作品において、OXYGEN の Xpath の機能を利用することで、タグ情報に基づきテキスト内の情報を抽出することが可能となる。これによりテキスト内の任意の登場人物の全ての台詞を抽出することができるだけでなく、例えば全ての作品の台詞の中で、話者が「父」であり聞き手が「娘」である全ての台詞を抽出することや、また社会的地位が「船員」である全ての台詞を抽出することができる。

このように関係性や社会的地位などを変数に台詞の発話内容を抽出することで、それぞれの関係性や社会的地位を有する登場人物の台詞の語彙情報を得ることができ、それらを利用してある関係性や社会的背景に共通する、または個性的要素を調査・分析できるようになることが期待できる。

#### 4. 研究成果

本研究におけるコーパスの作成に関しては、以下の表のように、Eugene O'Neill の 50 作品中の 30 作品については OXYGEN を用いて談話情報をマークアップされた精緻化コーパスを完成させ、また残り 20 作品中 14 作品に関しては 9 項目の談話情報の確認作業まで行うことができた：

作品名	単語数	談話情報 チェック	OXYGEN マークアップ
<i>A Wife for a Life</i>	3583		
<i>The Web</i>	5656		
<i>Thirst</i>	8460		
<i>Recklessness</i>	7092		
<i>Warnings</i>	6967		
<i>Fog</i>	6229		
<i>Bread and Butter</i>	24946		
<i>Bound East for Cardiff</i>	4544		
<i>Abortion</i>	6864		
<i>Servitude</i>	19452		
<i>The Personal Equation</i>	25785		
<i>Now I Ask You</i>	23156		
<i>In the Zone</i>	6960		
<i>The Long Voyage Home</i>	5562		
<i>The Rope</i>	9270		
<i>Beyond the Horizon</i>	37074		
<i>The Dreamy Kid</i>	6016		
<i>Where the Cross Is Made</i>	6117		
<i>Gold</i>	23690		
<i>Anna Christie</i>	25845		
<i>Diff'rent</i>	19247		
<i>Marco Millions</i>	29680		
<i>The First Man</i>	21155		
<i>The Great God Brown</i>	21470		
<i>Lazarus Laughed</i>	29820		
<i>The Fountain</i>	22708		
<i>Welded</i>	14355		

<i>All God's Chillun Got Wings</i>	13090		
<i>More Stately Mansions</i>	107110		
<i>A Moon for the Misbegotten</i>	33636		
<i>The Movie Man</i>	4278		-
<i>The Sniper</i>	5109		-
<i>Before Breakfast</i>	3400		-
<i>Ile</i>	6170		-
<i>Shell Shock</i>	5974		-
<i>The Straw</i>	28711		-
<i>Chris Christophersen</i>	33655		-
<i>The Emperor Jones</i>	11021		-
<i>The Hairy Ape</i>	15862		-
<i>Mourning Becomes Electra</i>	58027		-
<i>Desire Under the Elms</i>	21310		-
<i>The Iceman Cometh</i>	58791		-
<i>A Touch of the Poet</i>	38621		-
<i>Hughie</i>	9232		-
<i>The Moon of the Caribbees</i>	6265	-	-
<i>Strange Interlude</i>	64229	-	-
<i>Dynamo</i>	24927	-	-
<i>Ah, Wilderness!</i>	36729	-	-
<i>Days Without End</i>	24342	-	-
<i>Long Day's Journey into Night</i>	43569	-	-
<b>Total Word Token</b>	<b>1,075,761</b>		

またマニユスクリプト研究に関しては、以下の *Days Without End* の現存する 5 つのドラフトを調査・分析し、O' Neill が台詞に加えた様々な加筆修正・変更削除から彼が求めた効果的な言葉や表現と効果的な台詞の展開の過程に検証を加えた：

*Days Without End* の草稿

- “Days Without End, Early Draft,” ms., Eugene O' Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 48, Folder 994-996, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.
- “Days Without End, Early Intermediate Draft,” ms., Eugene O' Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 48, Folder 997-999, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.
- “Days Without End, Later Intermediate Draft,” ms., Eugene O' Neill Papers,

YCAL MSS 123, Box 48, Folder 1000-1002, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

- ・ “Days Without End, Later Draft,” ms., Eugene O’Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 48, Folder 1003-1005, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者は下線)

[雑誌論文](計 4 件)

Takuji NOSÉ (2019) “Creative Process of Dialogical Speeches in *Days Without End*” 福岡女学院大学紀要人文学部編第 29 号, pp. 41-66. <http://hdl.handle.net/11470/759>

能勢 卓 (2019) 「理論から実戦への試み--O'Neill 的な台詞と表現」(研究発表の概要), 『英語表現研究・Bulletin』第 74 号 (日本英語表現学会), p. 7.

能勢 卓 (2017) 「Ah, *Wilderness!*の台詞の文体分析: 喜劇性と人物像」(研究発表の概要), 『英語表現研究・Bulletin』第 71 号 (日本英語表現学会), p. 8.

Takuji NOSÉ (2017) “An Analysis of Linguistic Features in Characterization in *The Great God Brown*: How Does Eugene O’Neill Depict Two Or Three Aspects of Split-natured Protagonists?” 京都聖母女学院短期大学 『研究紀要』第 46 集, pp. 77-88.

[学会発表](計 2 件)

能勢 卓 (2018) 「理論から実戦への試み--O'Neill 的な台詞と表現」日本英語表現学会関東・関西合同例会(文学篇)(於、早稲田大学)

能勢 卓 (2017) 「Ah, *Wilderness!*の台詞の文体分析: 喜劇性と人物像」日本英語表現学会 第 46 回全国大会 (於、大阪電気通信大学)

## 6. 研究組織

### (2)研究協力者

研究協力者氏名: 旭野昇吾

ローマ字氏名: Shougo ASAHINO

(京都大学 工学部)

研究協力者氏名: 曾我部智之

ローマ字氏名: Tomoyuki SOGABE

(京都大学 工学部)

研究協力者氏名: 原征大

ローマ字氏名: Masahiro HARA

(京都大学 工学部)

研究協力者氏名: 川本大志

ローマ字氏名: Taishi KAWAMOTO

(京都大学 理学部)

研究協力者氏名: 野田叡寛

ローマ字氏名: Akihiro NODA

(京都大学 理学部)

研究協力者氏名: 細谷享平

ローマ字氏名: Kyouhei HOSOYA

(京都大学 理学部)

研究協力者氏名: 矢田歌菜絵

ローマ字氏名: Kanae YADA

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。